



TITLE:

利潤の經濟的及ひ道德的性質(一)

AUTHOR(S):

田島, 錦治

CITATION:

田島, 錦治. 利潤の經濟的及ひ道德的性質(一). 經濟論叢 1921, 13(1): 1-16

ISSUE DATE:

1921-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127805>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京 叢論濟經

號 一 第 卷三十第

行發日一月七年十正大

論 叢

利潤の經濟的道德的性質(一)

營業の租稅給付能力

進歩か退歩か(一)

農業勞働問題(一)

中世都市の發達(二)

時 論

直接稅制度の整理に就て

說 苑

我國農產物生産調査に就て(二)

雜 錄

米國一家五口最少生活資調

Luca Paciolo 以前の會計史概要

家畜保險に就いて

ボルシェヴィズム分解の傾向

法學博士 田島 錦治

法學博士 神戸 正雄

法學博士 財部 靜治

法學博士 河田 嗣郎

文學博士 三浦 周行

法學博士 小川郷太郎

法學博士 高岡 熊雄

法學博士 山本美越乃

法學士 大森 研造

經濟學士 野口 正造

法學博士 河田 嗣郎

經濟論叢

第十三卷 第一號 (通卷第七十三號)

大正十年七月發行

論叢

利潤の經濟的及び道德的性質 (一)

田 島 錦 治

第一節 企業及び企業者

余は曩に本誌に於て『勞賃の經濟的及び道德的性質』を論したり(第十卷第四號第十一卷第一號(同第三號)同第五號及び第十二卷第二號掲載)。

此論文に於て勞賃と利潤との差別及び關係に就て多少の説明を爲したれども、未だ以て利潤の本質を闡明するに足らず。尋て余は本誌に於て『勞働資本協調としての利潤配分』を論したり(第十二卷第四號及び第五號掲載)。

此論文に於ては利潤の本質に就て稍詳細なる説明を試み、利潤と勞賃との差別及び關係を一層明白ならしめたりと余は信すれども、要するに以上の二論文は勞賃又は勞働者を主位に置き、利潤又は企業者を客位に据えて説明したるものに外ならず。是に於て余は更に論題を新にし企

業者を主位に置きて、茲に利潤の經濟的及び道德的性質に就て論究する所あらむと欲す。

夫れ利潤とは何ぞや、曰く生産物の價値の分配上企業者の受くべき分前を謂ふ。蓋し現時の社會に於て財貨の生産に協力する所の四階級は各々其分前を受く、即ち地主は地代を得、資本主は利子を得、勞働者は勞賃を得へし。而して企業者は啻に生産の主宰者として生産要素を結合し、生産を計畫施行するのみならず、彼は又分配の仲介者として、生産物の價値を地代利子及勞賃として各要求者にそれ／＼分配し、而して若し餘剩あれば之を自己の所得と爲す、利潤即ち是なり。

社會主義者特にカール・マルクスの糟粕を嘗むる徒は、地主資本主企業者を一括して資本主 (capitalist) と呼ひて之を勞働者階級と對照し、後者特に肉體的勞働者のみを生産的階級と思考し、前者を罵りて寄生的若しくは不生産的階級と爲し、且此兩階級は生前よりの仇敵 (unborn enemies) にして其間に激烈不斷の階級闘争あり、而して産業の集中及び貧富の懸隔は竟に資本主階級の破滅及び勞働者階級の勝利を以て終局を告ぐるに至る可し、是れ進化の理法なりと論斷す。然れども輒近産業の最も進歩せる國に於て、地主資本主企業者及び各種の精神的及び肉體的の勞働者か分化したる所以は、實に進化の理法に従ふものなるは、社會主義者の往々看過する所なり。且彼等は漫然上級精神的勞働者を疎外し、之を以て彼等の所謂資本主の附屬と爲し、此兩者を有産階級 (bourgeoisie) の名稱の下に一括して、下級肉體的勞働者即ち無産階級 (proletariat) と對照し

て、此兩階級間に不斷の利害の衝突あるを説くは亦實際の事實に符合せず。

若し社會主義者の思考する如く、現時の社會が單に資本主と勞働者、若しくは有産階級と無産階級とに截然兩分せられたむには、經濟の理論は至て簡單となり得べく、其政策も亦非常に容易となり得へからむ。思ふに社會主義の一派例へは佛人ジュール・グード (M. Jules Guesde) が市會又は國會に成る可く多數の同主義者を選出することに由りて先づ公權力を獲、而る後に其主義の實行を期する如き、又は同主義の他派例へはサン・デカリスト (syndicaliste) が總同盟罷業の直接手段に訴へてマルクス主義の實行を企つる如きは、共に社會階級の兩分及び其不斷の鬭争の謬想に驅られたる妄動に外ならざるなり。マルクス主義の根柢最も深く、其傳播最も著るしき佛獨諸國に於て、社會主義者か久しく政權を攫取する能はず、偶ま之を得ること有るも、黨内に分裂を生じて、又忽ち之を失ひ、而して今や譯國を除く所の歐洲諸國に於ては、寧ろ反社會主義の各派が優勢となり又は社會主義者と聯立するの現狀は最も雄辯に階級兩分説の荒唐無稽を語るものなり。然り而して謂ゆるサン・デカリストの直接行動の暴擧の如きは、到る處抑壓せられて、其標語なる總同盟罷業は畢竟部分的同盟罷業の間歇的發作たるに止まらむとす。是れ亦不斷鬭争説の事實に反するを證明するものに非ずして何ぞや。

現時の文明社會を通觀するに、財産所有の狀態は甚た複雑にして、且絶えず變化し決して簡單

に有産及び無産の二階級に區別し得へきに非ず。肉體的労働者にして、多額の貯金を爲し、株券を所有して、小資本主及び小企業者の資格を保つ者あり。又は農村の小地主にして、却て負債に苦しみ、高等なる精神的労働者例へは官公吏及び教育家の如きは社會主義者の謂ゆる有産階級即ちブルジョワジーに屬する者にして、其實際的及び名義的所得は遙かに普通の労働者に及はざるあり。純然たる資本主と稱すべき者の多數例へは半世の努力の結果たる貯金の利子に依りて辛ふして晩年を實事に送る人々の如きは、寧ろ大に同情を寄すべき側に屬し社會主義者の怨恨嘲罵を値すべき者に非ざるは明なり。社會主義者が誤て資本主の名稱を附する所の企業者の中に就て之を見るも、其企業の組織及び規模は單複大小千差萬別なり。夫の所謂自治的生産者 (autonomic producers) 即ち労働を親らする企業者は社會主義之を何れの階級に數へんとする乎。例へは我國農民の殆んど總てを組成する自作農及び小作農は如何。前者は土地を所有し、耕作に必要な農具小舎牛馬肥料種子等を所有するか故に地主資本主及び労働者の三資格を兼ねる者に非ずや。又小作農は土地を所有せされとも耕作に必要な資本を所有するか故に、資本主労働者の二資格を兼ねる者に非ずや。近來工業に於ては大規模なる株式企業盛に行はれて、往々同種の小規模の者を壓倒し、謂ゆる産業の集中か益々行れつゝあるは、必ずしも社會主義者の言を俟ちて而る後に知らず。然れども都會に於ても小規模なる企業は決して其跡を絶たざるのみならず、其新なる種

類の者の益々増加しつゝあるを見る。且大規模なる株式企業の株主中に近年労働者の数を見ること年々増加するは、社會主義に對する無言の反駁なりと謂はざるを得ず。

由是觀之、社會主義の社會階級兩分説及び兩階級間不斷闘爭説の謬れるは明かなり。彼等はアダム・スミスやリカルドの經濟學説を採り來りて、其主張の根據と爲し、自から科學的社會主義なりと誇稱すと雖も、スミスやリカルドの誤謬又は短所を繼承したる所亦尠からず。勞働を價值の根源及び測度となし、勞賃鐵則を説くか如きは即ち是にして、資本主と企業者とを混同したるも亦同例に屬す。スミスは常に資本主と企業者とを混同して單に資本主なる名稱を用ひたるのみならず、其當然の結果として企業の利潤と資本の利子とを混同したり。氏の著『國民の富』第一章第九章に the profit of stock とあるは即ち其一例なり。スミス及び其他の學者が資本主と企業者とを混同するの不正確を革め企業者の眞意義を明かにしたるは實に佛國經濟學者特にジャン・バプチスト・セー氏なりとす（但しスミス以前に佛國自然法則學派の泰斗ケネー氏は始めて企業者 entrepreneur の語を使用したり）。セー氏は曰く「凡そ品物の何たるを問はす、之をして人類の欲望を滿すに適當のものたらしむる爲には工夫を凝らし、計畫を立て、且實施の方法を進むるを要す。若し余にして或方法にて作らるゝ所の織物か男又は女の衣服に適し、それか出來上りたる時相當の價にて賣れ行くべきを判斷したるとき、若し余にして此價か余の費用を償ひ及び余の

「勞苦を報ふるに足るものなるを判斷したるときは、余は此生産を行ふに要する種々の手段を集めて之を利用すべし。是れ一の産業的企業の起原なり (l'orgine d'une entreprise industrielle)。産業的企業の實行には多くの人が及び多くの技能の協力を要す。企業者 (l'entrepreneur) は其實施せんと欲する技術の諸方法を知るを要す。而して此諸方法は往々甚だ高尚なる學識を基礎とするものなり」と。氏は卑近なる例を絹綿羊毛等の紡績染織に取りて、此等の工業の基礎は物理學化學機械工學の研究に在ることを論じ、『故に産業の作用を指導する所の科學は諸産業的能力の一重要部分 (une partie essentielle des facultés industrielles) なり』と斷し、科學の興廢は古今諸國民の産業の盛衰を伴ふことを説き、從來の經濟學 (例へばスミスの如き) が學者 (savants) を不生性勞動者 (travailleurs improductifs) と認めたる誤謬を指摘し、ベーコン氏の "Novum Organum" の一節を掲げて之を證明せり。

「ベーコン曰く功名心 (ambition) に三種又は三級あり、其一は自から特別優勝なる地位を享けんと欲する人々の功名心にて、これは最も卑俗なるものなり。其二は人類の中間に自己の祖國をして主宰せしめむと欲する功名心にて、これは疑も無く一層高尚なるものなれども、尙ほ未だ正しからず。其三は自然 (la nature) の上に於ける人の支配權 (domination) を擴大することを勉むるものにて (若し之をしも功名心と稱し得べくんば)、これ總ての中の最も穩健にして尊敬すべき

功名心なり。諸物件の上に於ける人の主權 (*L'empire de l'homme sur les choses*) の單一なる基礎は科學及び技藝なり、何となれば人か自然を支配し得るは、唯自然の諸法則を學ぶに由る外なければなりと。夫れ斯の如く科學は産業的技術及び富の基礎にして、無智なる人民か決して富裕なる能はさることは歴史の明證する所なり。』

斯の如くセー氏は科學を以て富の生産に缺く可からざる一條件なることを力説し、更に進んで他の條件に論歩を進めて曰く『科學上の知識のみにては不充分なり、即ち物の效用 (即ち吾人の欲望を満足せしむる力) は單に諸科學か吾人に開示せる事實又は法則より生ずるものに非ず。吾人は理化學の講習に於て酸素や磁氣や電氣に就て研究し其他奇妙なる實驗を行ふも、此等は一錢の富をも生産する爲には非ず。吾人が取り得べき效用は唯吾人は同時に人類の欲望の何なるかを認め、及び此等の欲望を充す爲に従來唯奇妙と思はれたる斯の如き實驗を應用することを知りたる場合にのみ生産され得るものなり。伊太利の物理學者ヴォルタ氏かヴォルタ電槽 (*la pile de Volta*) の示す所の奇現象を發見し及び説明したる時は、唯奇妙なる一實驗ありしのみ。英人デーヴィー氏 (*Davy*) か之を船底の被覆に應用したる時、此發見は其銅板の保存の爲に非常に有用となりたり。斯の如く生産は皆に科學又は知識 (*notions*) のみより成立せずして、此外に此等知識の應用を人の欲望充足に向て爲すに因る……此應用は或智能的工夫 (*une certaine combinaison*

intellectuelle)を要す。即ち啻に人の物質的欲望を判斷するのみならず、其道德的構成即ち彼の風俗、習慣、嗜好、彼の享くる文化の程度、彼の信する宗教等を考察するを要す。何となれば此等の總ては彼の欲望の上に影響し、從て之を充す爲に彼が支出せんとする犠牲の上に影響すればなり。前述の如き應用の種類は生産の重要な一部を成すものにして、是れ即ち余輩が産業的企業者(*entrepreneurs d'industrie*)と名くる人々の一階級の職務なり。……而して産業的企業者は總ての技術の作用を單獨に施行する能はず。技術は往々甚だ複雑にして、多數の手及び唯長期の慣行に由りてのみ得らるゝ熟練の助力を要すべし。此等の助力こそ唯の労働者の課業(*le tâche du simple ouvrier*)を成すなれ。企業者は人類の最も高尚なる者及び最も下卑なる者を共に利用す。彼は學者より指導を受けて之を労働者に傳達す。』

セー氏は更に労働者に熟練と不熟練の等級あるを述べ、熟練労働者と雖も其任務は決して學者又は企業者と同しからざるを説き、智能ある労働者は往々其地位を進め、又學者が時として企業者の地位に降ることあり、斯くして彼等が其通常の職務の上に他の職務を兼ねること有るを辯し、而も産業的作用は結局(1)學者の研究(2)企業者の應用(3)労働者の任務の三者相俟ちて其効果を完ふするものなるを論じたり。氏はアダム・スミスか此三種の任務を勞動なる名稱に一括したるの不條理なるを説き、企業者を以て生産の主要なる要因(*l'agent principal de la production*)なりと爲し

て曰く『他の諸作用も財貨の生産の爲に缺く可からざるものなり、然れども此等を活用し有利なる衝動を與へ、それより價值を引き出す所の者は企業者なり。彼は欲望及び之を満すへき手段を判斷し、目的と手段とを比較す。要するに彼の主要なる資格は判斷(Jugement)なりとす。彼は自身に科學を修むるを要せず、たゞ他人の科學の知識を正當に利用するを得へし。又彼は業務に對し其手を働かすことを避け、他人の手を使役するを得へし。然れども彼は常に判斷を有せざる可からず。若し判斷を缺かんか、彼は大きな費用を以て毫も價值を有せざる物を作るに至る可し。斯の如きは實に個人を破滅せしむるのみならず、又國の繁榮を害するや疑を容れず』と。(Jean Baptiste Say, Cours complet d'économie politique pratique, Paris 1852. tome I. première partie. ch. 6. page 90-100)。

上述セー氏の説を熟讀玩味するときは、企業及び企業者の意義及び任務は甚だ明瞭にして、蓋し輓近の學說も此の説を多く變改する所あるを見ず。實に氏の説は前に出たるアダム・スミス氏の意見の曖昧及び混亂を肅清したると同時に、後に現はれたるマルクス等社會主義の主張の偏狹及び矛盾を豫め指摘したるものと謂ふへし。但し輓近の學說に於ては企業者を以て生産の三要素を結合して最も多く之を利用することを勉むる者となせども、此考はセー氏の説中に既に含蓄せらるゝものなり。セー氏か科學を以て富の生産に缺く可からざる一條件と爲し、ベーコン氏の説

を假りて科學は自然の諸法則を研究するものにして、之に由りて人は自然を支配するを得べきを説き、企業者は此科學の知識を實際に應用する任務を有するを論す。然らば則ちセー氏か企業者の任務を以て資本及び勞力の二を自然に結付くる意見を含蓄するは論を誤たす。又輒近の學說に於ては企業者を以て業務上一切の危險を負擔する者となし、之を以て彼と其雇傭勞動者とを區別するの一標識と爲すと雖も、此考も亦既にセー氏の說中に含蓄せらるゝことは、余か最後に援用せる氏の言に依りて明白なり。即ち氏は企業者の主要なる資格は判斷なりと言ひ、此判斷を缺くときは其身の破滅を招く可きを述べたるは、企業者の業務上の危險(二)を指示したるもの以外ならざるなり。此危險は企業の種類に従ひ大小の差ありと雖も概して技術的危險と經濟的危險との二に分つを得へし。謂ゆる技術的危險とは生産物が豫期の如く産出せらるゝや否やに關し、經濟的危險とは生産物の註文又は販路の有無大小に關し、從て企業者の損益即ち利潤の有無大小に最も緊切の關係を有するものなり。

以上述べたる所を要約し且余の至當と信する定義を下すときは、産業的企業とは人か他人の需要する財貨の生産を計畫し、自己の計算を以て、及び損失の危險を冒し、而も利潤を成る可く多く得んとする目的を以て其生産を施行することを謂ふ。次に企業者とは即ち企業を爲す人を謂ひ、詳言すれば企業者とは社會の現に需要する所の又は將に需要せんとすべき生産物の種類分量及び

性質を先づ判斷し、之か生産方法を考量し、生産の要素即ち自然勞力及び資本の三者を適當に結合し、業務上の危險は自から之を負擔し、其生産費用は成る可く節約し、其生産物は成る可く有^る利に之を賣却せんことを勉め、而して之を賣りて得たる收入總額より生産費用の總額を控除したる餘剩即ち利潤ある時は之を自己の所得と爲す所の個人又は法人を謂ふ。

小規模の生産を爲す企業者即ち謂ゆる自治生産者 (le producteur autonome) 例へは自作農、小作農、手工業家等は尋常の勞働者と同様なる肉體的勞働を爲す者なれども、大規模の生産を爲す所の企業者は然らず。彼は啻に肉體的勞働を爲さるのみならず、彼の精神的勞働の一部、例へは雇傭勞働者の指揮監督其他業務の取締を擧げて支配人其他役員に委任し、唯彼は生産の計畫及び施行の大綱を統へ、業務上の終局の責任危險を負擔するに過ぎざるものあり。

自治的生産者例へは自作農は企業者の資格に地主資本主勞働者を兼ね、小作農及び手工業家(靴師、裁縫師、指物師、金屬細工人等一々枚舉するに遑あらず)等は企業者の資格の外に資本主勞働者を兼ねる者なり。從て謂ゆる三生産要素の結合又は勞働及び資本の調和は自然に行はるか故に、學者例へは復古派は往々自治的生産者の様式を謳歌して之を以て最も自然的理想的のものと爲すあり。然れども此考は蓋し社會進化の法則を解せざるものに似たり。夫れ社會の事物は絶えず簡單より複雑に進み、複雑は分化して多數の簡單を生み、多數の簡單は又互に相關係し又は統轄せ

られて複雑的簡單を構成す。現時の社會に於て地主勞働者資本主及び企業主の四階級が発生し、自治的生産者の一部は勞働者階級に落ち、而して其一部並に地主資本主の一部より謂ゆる専門的企業者が分化し、此者が別に分化せられつゝある地主、資本主及び勞働者の所有する所の土地資本及び勞働力を自己の企業に招集して之を統轄するは、是れ社會進化の法則に従ふ所の複雑的簡單を構成するものに外ならざるなり。

自治的生産者の様式が現代に於ても猶其存在の理由を有するは疑を容れずと雖も、之をして社會全般に普及せしめんと欲するは謬る。社會主義は小規模なる自治的生産者は悉く倒れて大規模なる産業の集中は行はれ、世は少數の有産的資本主階級と多數の無産的勞働者階級の對立となり、兩者間の不斷劇烈的階級闘争は結局有産階級の破滅に畢りて、勞働者階級のみより成る社會が生産及び分配を綜合統一するに至るへしと思考し、之に反して復古派は小規模なる自治的生産を以て最も自然的理想的と思考し、大規模なる私的企業にも又社會主義の唱ふる社會の統一せる公的企業にも共に反對す。前者は太た過ぎ、後者は却て及はず、共に正鵠中庸を得たるものに非ざるなり。

自治的生産者は古代生産の最も幼稚なる時に於てすら多く行はれず、特に現代の進歩したる産業に於て到底其一般的流行を望むべからざるはルロワ・ボーリニエ氏の指摘する所の如し。氏は

漁獵遊牧民族又は古代の農民間に於て孤立的若くは自治的生産の實行せられざるを述へ。例へは獵に就ては多數人の一致協力例へは獲物の狩出しの如きを要する如く、概して自治的生産は寧ろ例外のものたりしか故に之に對して其古きを談し其傳統を稱し又は其自然法に合するを主張する能はずと論斷し。此様式は唯原始的野蠻時代と進歩的文化時代との間の經過的社會狀態の下に、タトヒ工業又は農業の總ての範圍に涉る能はさるとも、頗る大なる位置を占めたるに過ぎずと述へ。到底現代の如き分業大に行はれ、生産物大に變化したる時代の生産方法及び生産方便の進歩に伴ふこと能はず、唯此様式は靜止せる社會又は結晶せる社會に屢々現はるゝに過ぎずと論したるは實に肯綮に當れりと謂ふ可し。(Paul Leroy-Beaulieu, Traité théorique et pratique d'économie politique. Paris. 1914, tome I. p. 293-295.)

現時の進歩せる生産に於て一人か或種類の生産に要する土地資本及び勞働の總てを兼ね有つことは多くの場合に不可能なるのみならず、たとひ之を兼ね有つ人又は其一部を有つ人と雖も、之を自から適當に利用するを得ざる者甚だ多しとす。土地の面積の比較的大なるを要する農業の種類又は小なる土地を別々に耕やすよりは大なる土地を一纏めに耕やす方が遙かに有利なる場合に於ては、數多の小地主は協同企業を行ふか、又は他の堪能なる企業者に各々其土地を提供するを有利となすべし。勞働又は資本に就て見るも亦然り。即ち多數の勞働又は巨額の資本を要する生産

及び之を用ふる方か少數の勞働又は少額の資本を用ふるよりは遙かに有利なる生産は、到底自治的生産者の企て及ふ能はざるは勿論なり。故に斯の如き場合に於て堪能なる企業者か多數人に屬する資本を借入れ、自己の所有する資本あらは之を合して最も有利に之を使用するを勉め、又多數の勞働者を雇入れ、彼等の技能に應じて適宜に之を任用せは、資本及び勞働は始めて能く其効果を擧ぐるを得へし。由是觀之、企業者か三生産要素を結合するは之を經濟的に觀れば小利を合して大利と爲すものにして、之を道德的に觀れば小善を進めて大善と爲すものなりとす。土地并に其他の自然の寶庫は科學者の發見發明の鍵に依りて吾人の智能の前に開かるへしと雖も、之を適當に按排して吾人の欲望充足の資料と爲すは、必ず企業者の判斷工夫に俟つへし。發見發明は最も高尚なる勞働なり、科學者は(若し斯く稱し得へくんは)最も貴重なる勞働者なり。科學者の中には稀には優秀なる企業的才能を兼ね、又は大なる資本を有することも有るへし。然れども科學者の才能は企業者の才能とは別種なり。普通の勞働者の中にも、其智能ある者は進むて企業者の地位に上ること有るへし。然れども之か爲に唯の勞働と企業とを混同するを得ず。此二事たるや曩に掲げたるジャン・バプチスト・セー氏の言既に説き盡して餘蘊ある無し。

之を要するに輓近の社會に於て専門的企業者か一面には地主資本主より分化し、他面には勞働者科學者より分化し、而して彼は更に此等諸階級を連絡するの鎖となり、財貨の生産を主宰し及

ひ之か分配を仲介して、此等諸階級并に自己階級の共同の利益を増進するに至れるは、實に社會進化の法則に従ふものなり。ルロワ・ボリーユ氏か此法則を説く所の經濟學を生物學(biologie)に比較し、社會主義を古昔の鍊金術(alchimie)に比較するものは先づ余輩の意を獲たりと謂ふべきなり。(前掲書一九七頁參照)。試に動物に就て觀察するに、神經系統は其等級の高きもの程發達して消化機關移動機關及び其他の從屬的機關と區別せらるゝに至る。産業的社會に就て見るも亦同様なり。ルロワ・ボリーユ氏か『企業は經濟的機關(l'organisme économique)なり。企業者は之に生命、意識、方針を與ふる所の神經中樞なり、企業者は社會的構造の中心點にして其原動力なり』と言へるは實に當れり。(同書一九八頁參照)。

社會主義は勞働を以て唯一なる生産要素と爲し、自然を度外に措き、資本を以て過去の勞働即ち死せる物にして、詳言すれば糧食、原料、生産用具及び裝置等既に生命なき物より成るものと爲す。而して此等の無生物は人道上生ける勞働、即ち勞働者より成立する所の階級に服従す可きものなりと主張す。斯の如く社會主義は常に勞働と資本とを對照して、死せる資本が生ける勞働を雇使するの矛盾を説き、而も勞働と資本との連鎖たり原動力たる企業が存在するを認めざるは大なる誤謬なり。企業者は概して資本の所有者なれども、他人に屬する資本をも利用す。又彼は自身に其固有なる精神的勞働を爲すのみならず時としては普通の勞働を爲すことあり、且他人に屬

する精神的及び肉體的勞働を利用す。又企業者の中には勞働者階級より出身して、多年刻苦勵精の功を積みたる人あり、斯の如き人は隣間の勞働も苟にすへからず、毫厘の資本も輕んず可からざるを知るか故に、資本と勞働とを最も善く結合調和する所の人たるを得、即ち彼は優秀なる企業者の一資格を具ふるものと謂ふへし。富者又は其子弟にして企業者と爲る場合は甚だ多し。然れども彼等か優秀なる企業者として成功する爲には、一方には多數多種の勞働を善用して勞働者階級の倚重する所となり、他方には自己并に他人の資本を善用して、資本主階級の信賴する所となるを要すへし。産業界の實際に徴するに、適者生存の進化法則は絶えず行はれて、前述の如き優秀なる企業者は輩出し成功し、然らざる人は失敗し消滅す。然らば社會主義か死せる資本が生ける勞働を雇使すと謂ふは謬れり。死せる資本を活用するは企業なり、生ける勞働を活動せしむるものは亦企業なり。社會主義か資本と勞働との對抗闘争を以て進化法則と爲すは謬れり。企業か資本と勞働とを結合調和するは則ち進化法則なり。(未完)